



2020年度 学校経営方針

育てたい人間像

高い志とグローバルな視野を持って地域社会に貢献できる人材

北高の強み

- ・高い志を持った生徒
- ・教員の授業力が高い
- ・同窓会やPTAの支援
- ・進学重点型単位制
- ・2つの県指定事業
- ・美しい校舎（生命館）
- ・良好な交通アクセス

荒野を拓く探究人

変わらぬ色の三つ柏
若き生命 高き志操
ペンの象る英知をもちて

北高の弱み

- ・普通科のため特色を出しにくく、県で○番目の進学校という評価（他の進学校と差別化図り難い）
- ・地域連携の機会が少ない
- ・今後の少子化

高校教育改革の動向

- ・R元～5年度 第3次教育ビジョン
- ・「ふるさと教育の推進」「ICT環境整備」
- ・R2年度から大学入試改革
- ・R4年度から次期学習指導要領導入

本校の現状と課題

1 生徒の実態

- 誠実で礼儀正しく、高い志を持って学ぶ生徒が多い。
- 頭髪・服装・行動ともに高校生らしく、人間関係も落ち着いている。
- 部活動への加入率は約90%で、文武両道を目指す生徒が多い。
- 一方で、挫折した経験は少なく、打たれ弱い面もある。

2 学習・進路状況

- 入学直後の外部模試の結果は例年ほぼ同じ、学力優秀な生徒が入学している。
- ここ数年の本校の進学実績は、国公立大学を中心に堅実な成果（R元年末国公立合格者現役232（昨年191）名）を上げている。現役200名合格が目標。
- 東大合格者はいなかったが、京都大学2名、岐阜大学医学部4名＋富山大医学部1名が合格。難関国公立大、医学部医学科への意識の変化もみられる。
- 一方で、本校の進学実績の一つの指標となっているのは名古屋大学（R2合格者20名）の支援体制の確立が今後の課題。現役30名合格が目標。
- 進学重点型単位制（R元～）を導入し、1年生の数学や英語での分割授業の実施や、選択授業を増やしている。「個別最適化」を目指して、きめの細かい進路指導や多様な学びを実現していくことが課題。
- 県指定事業「地域共創フラッグシップハイスクール事業」（R元～）を活用し、新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた地域課題解決型の探究的な学習の推進が課題。



本年度の学校経営上の重点事項

1 進学重点型単位制カリキュラムの検証

- 履修登録のシステム開発とシラバスを活用したガイダンスの在り方の研究
- 1年次の数学、英語の分割授業の有効な活用 基礎力育成がポイント
- 2年次以降の選択科目や学校選択科目の開発と具体的授業計画の立案
(名大 MIRAI、オーストラリア研修、フラッグシップハイスクール事業の活用)

2 地域共創フラッグシップハイスクール事業

- 1年次 テーマ：地元岐阜の活性化のための方策を探究する
内 容：「社会と情報」を中心に活動
- 2年次 テーマ：発展途上国の開発援助のための方策を探究する
内 容：「総合的な探究の時間」を中心に活動

3 進学指導重点校事業

- 1年生から主体的かつ継続的に難関大学を目指す生徒を育成する。
- 大学入試改革に対応した新しい進路支援体制を確立する。
(大学入学共通テスト、AO入試、eポートフォリオ、主体性評価への対応)

4 アクティブラーニング型授業の推進と ICT 環境の活用

- 電子黒板を有効活用した授業展開の研究、Classi、web 会議室等の活用。

5 組織的な生徒指導・教育相談体制

- 組織的に情報共有と連携ができる生徒指導・教育相談体制の構築。社会のリーダーとしての道徳心と責任感を養う (noblesse oblige) と同時に、個別の支援計画等による特別支援教育の充実を図る。

6 国際交流の推進

- グローバルな視野を育成するためオーストラリア研修の他、ALT を積極活用。

7 広報活動

- メディアを積極的に活用、中学生や保護者向けにホームページを積極更新する。

8 働き方改革 2020 の推進

- 超過勤務月 45 時間以下、年間 360 時間以下の徹底、業務の平準化。
- 「早く家庭に帰る日」、「ノー残業デー」の徹底。管理職が最後の施錠をする。
- 学校閉庁日の設定 (8 月 11~14 日)、時間外の留守電話対応 等。

多様な学びの実現

今後の方向性

1 進学重視型単位制高校としてのコンセプトの確立

- 令和 4 年度の新学習指導要領の導入を視野に、3年間で「多様な学び」、「探究的な学び」を柱とし、生徒が自ら拓く「新しい進学校」の形をつくる。

2 スクールポリシー、単位制、フラッグシップハイスクール事業、ICT 活用を一体的に推進。